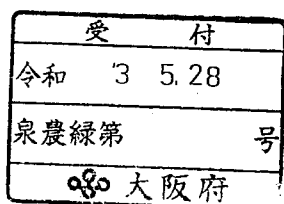


（第1面）

産業廃棄物処理計画書

令和3年5月26日

大阪府知事（大阪府泉州農と緑の総合事務所長） 殿



提出者
住 所 大阪府泉南市男里四丁目33番7号
氏 名 株式会社リバース 代表取締役 谷マリ子
(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)
電話番号 072-485-4545

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	株式会社リバース 本社工場
事業場の所在地	大阪府泉南市男里四丁目33番7号
計画期間	2021年4月1日～2022年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	14：パルプ・紙・紙加工品製造業
②事業の規模	製造品出荷額：30億円
③従業員数	77人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙の通り

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
(管理体制図) 別紙の通り			
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
①現状	【前年度(2020年度)実績】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	有機性汚泥
	排出量	1,872 t	365,350 t
	(これまでに実施した取組) ①原料・製品歩留の向上のため、各部署各工程にて減量化の取組みに努めている。 ②月1回開催されるISO環境管理委員会で発生量を報告し、産廃発生の変因解析を行ない、さらなる減量化を模索している。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	有機性汚泥
	排出量	1,500 t	300,000 t
	(今後実施する予定の取組) ①古紙原料の歩留向上のため、異物混入抑止の啓蒙活動。 ②木質チップの使用量削減を検討し、もえがら・ばいじんの削減を図る。 ③MFCA(マテリアルフローコスト会計)の活用により、産廃発生の変因解析を行ない、さらなる減量化を模索している。		
産業廃棄物の分別に関する事項			
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃プラスチック類・汚泥・もえがらばいじんをそれぞれ分別し、保管している。		
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 特になし		

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（2020年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	有機性汚泥
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) 実施していない		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	有機性汚泥
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) 予定なし		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（2020年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	有機性汚泥
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	1,872 t	9,864 t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	1,332 t	362,035 t
(これまでに実施した取組) ①原料歩留の向上（余剰蒸気の利用によるパック蒸し、薬品添加量や運転方法の改善によるスラッジ発生の抑制） ②スラッジ乾燥設備+焼却設備により、全量ボイラー熱回収。			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	有機性汚泥
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	1,500 t	8,100 t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	844 t	296,556 t
(今後実施する予定の取組) 特になし			

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（2020年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	有機性汚泥
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0 t	0
	（これまでに実施した取組） 実施していない		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	有機性汚泥
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0 t	0
	（今後実施する予定の取組） 予定なし		

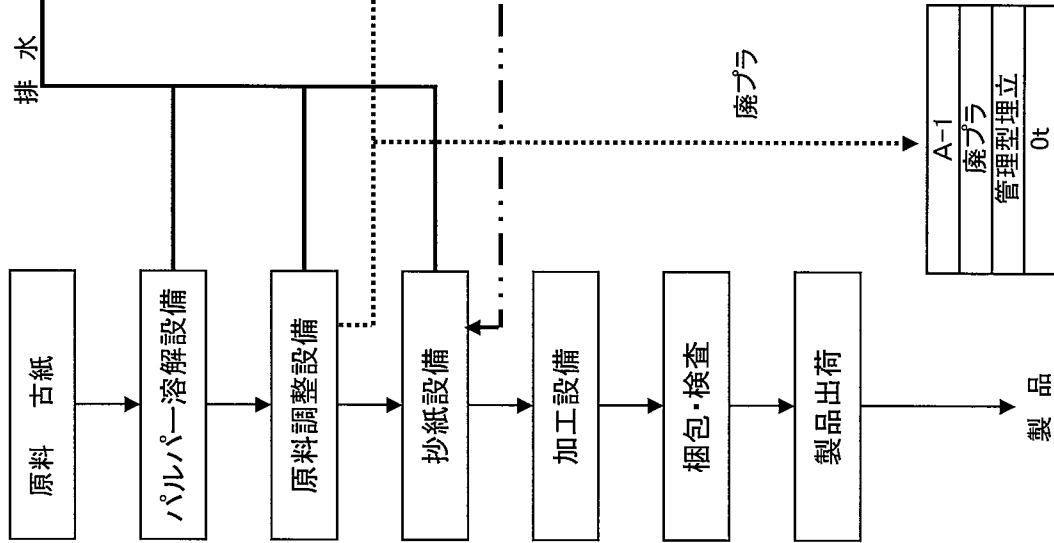
産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（2020年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	有機性汚泥
	全処理委託量	540 t	3315 t
	優良認定処理業者への処理委託量	540 t	3315 t
	再生利用業者への処理委託量	t	
	認定熱回収業者への処理委託量	t	
	認定熱回収業者以外 の熱回収を行う業者	t	
（これまでに実施した取組） 以前は、廃プラスチック類・有機性汚泥も処理委託していたが、全自社で焼却できている。経営母体が優良認定廃棄物処理業者であり双方の監視体制は十分である。現地確認も行なっている。			

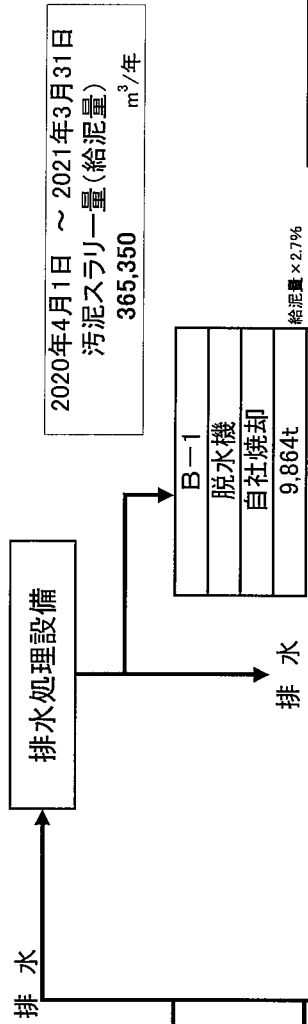
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	有機性汚泥
	全処理委託量	656 t	3,444
	優良認定処理業者への処理委託量	656 t	3,444
	再生利用業者への処理委託量	t	
	認定熱回収業者への処理委託量	t	
	認定熱回収業者以外 の熱回収を行う業者 への処理委託量	t	
(今後実施する予定の取組) 特になし			
※事務処理欄			

2020年度 産業廃棄物発生行程フローシート(実績ベース)

A 製紙行程



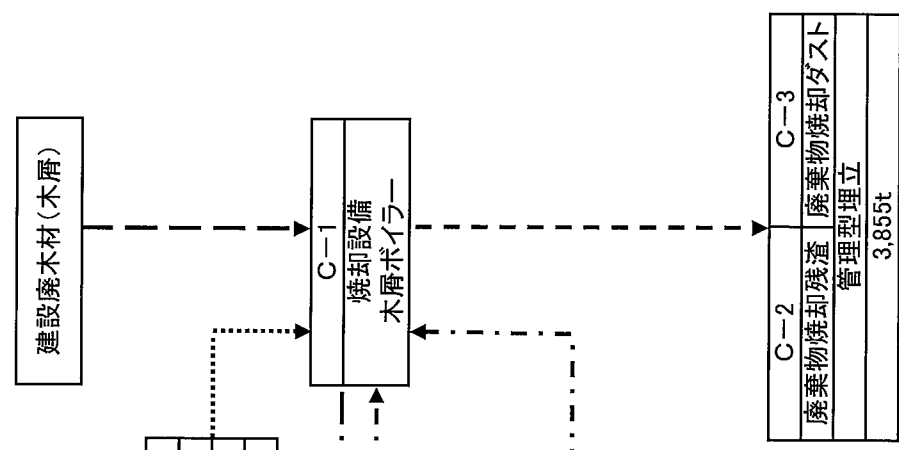
B 排水処理工程

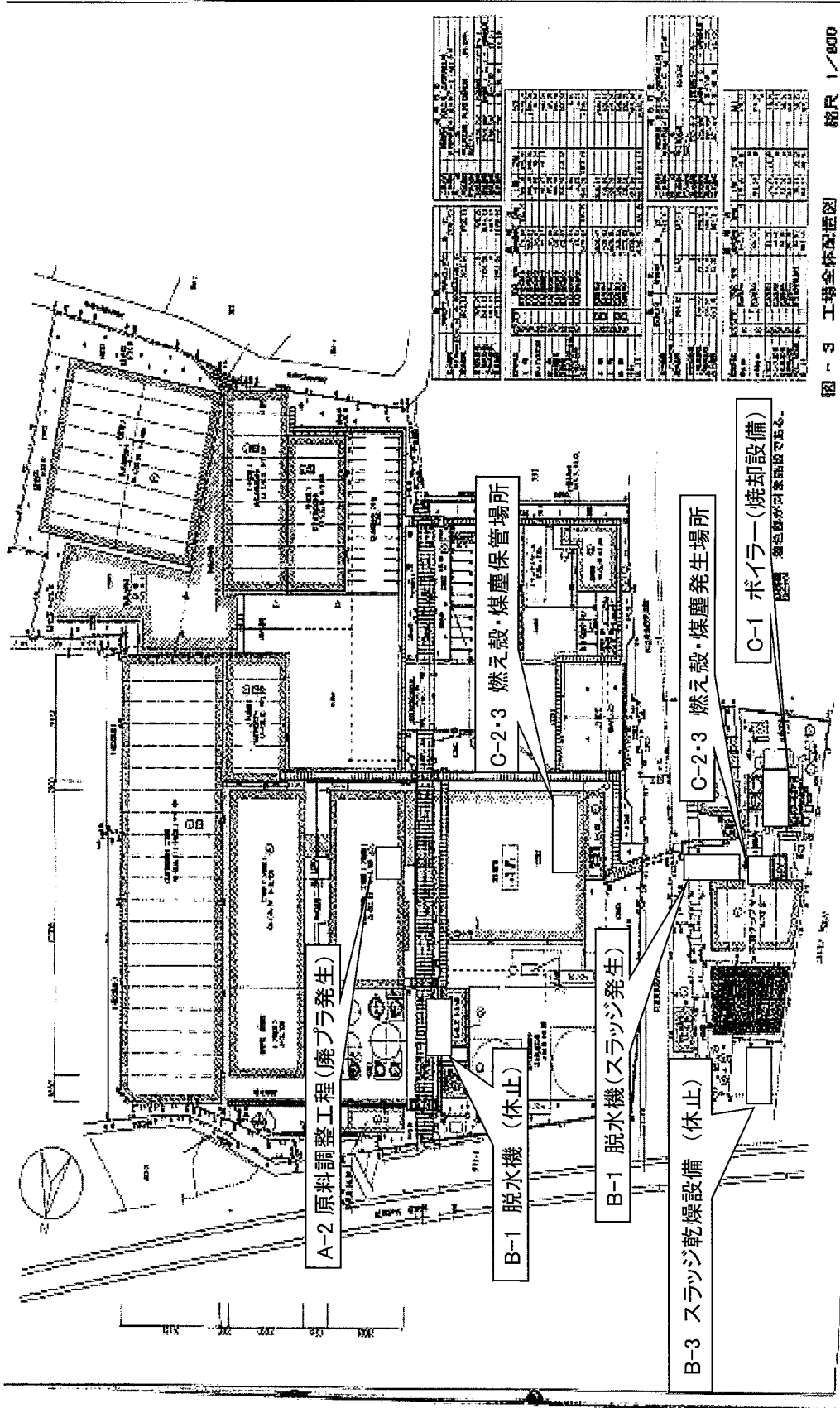


2020年4月1日 ~ 2021年3月31日
汚泥スラリー量 (給泥量) $m^3/年$
365,350

給泥量×2.7%

C 焼却行程



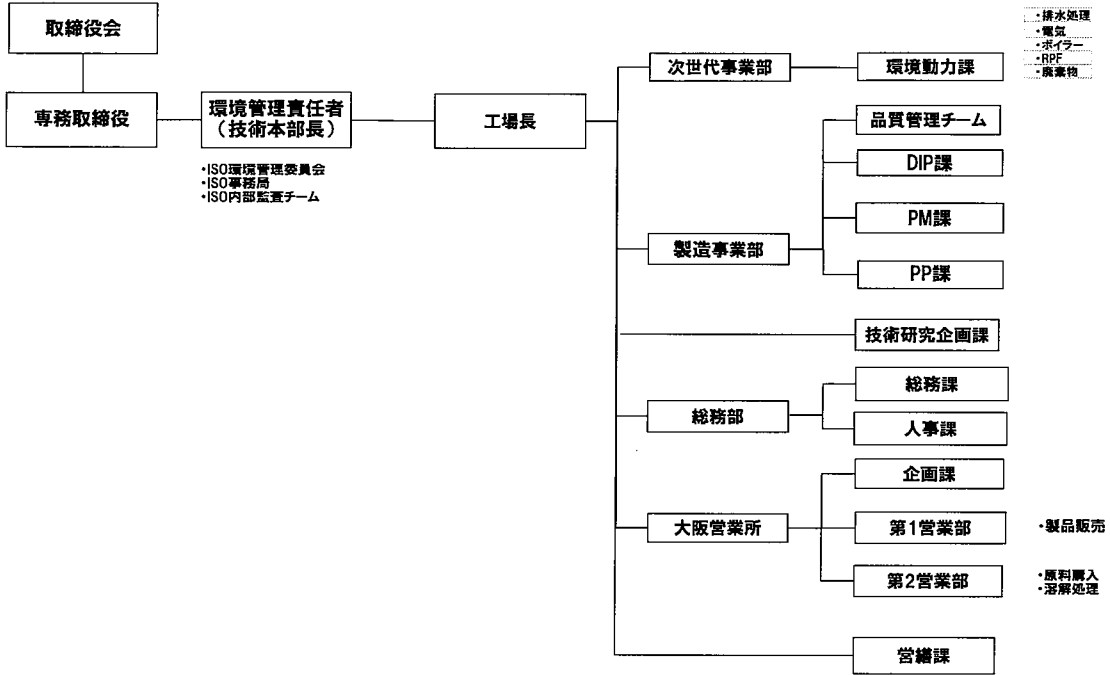


設備名	種別	数量	単位	備註
原料調整工程	設備	1	台	
脱水機	設備	2	台	
スラッジ乾燥設備	設備	1	台	
燃え殻・煤塵保管場所	倉庫	2	箇所	
燃え殻・煤塵発生場所	倉庫	2	箇所	
ボイラー	設備	1	台	

図 - 3 工場全体配置図 縮尺 1/800

株式会社 リバース 組織図

2021.04現在



各部署の役割

部署	役割
次世代事業部	・各部署間の調整・指示
	・産業廃棄物処理計画の策定
	・最終処分場の稼働状況の把握
	・産業廃棄物の分析(外部依頼)
	・廃棄物の発生～処分の帳簿作成、統括的に把握管理
	・廃棄物の発生工程・種類ごとの発生量、排出量・性状のチェック、集計
	・行政の立合い、届出・報告等の対応
	・産業廃棄物の種類・性状・発生量および排出量の把握
	・施設の維持点検管理等
	・保管施設の保管量の把握、中間処理施設の稼働状況の把握、記録作成、搬出手配
製造事業部DIP設備	・産業廃棄物の水分測定
	・生産工程における産業廃棄物減量化の実践
総務部	・処理委託契約、委託量・マニフェストの管理
	・産業廃棄物処理コストの算出・把握
	・産業廃棄物の適正処理費用の算出
	・委託料金の支払業務
ISO環境管理委員会	・産業廃棄物の適正管理・減量化に関する社内啓発
第2営業部	・事前分別などのPR(産業廃棄物の発生抑制)